

策定年月	令和5年4月
見直し年月	令和5年7月
見直し年月	令和6年3月

麦・大豆国産化プラン

産地名：多賀町

(作成主体：多賀町農業再生協議会)

1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

多賀町は滋賀県の北東部に広がる湖東平野の東部に位置し、その位置条件を活かして稲を主体とする農業生産を展開してきたが、近年では、麦・大豆・そばの本作に向けた取り組みや、パイプハウスによる施設野菜の生産も取り入れている。

近年、米価下落や消費の減少等、米をめぐる情勢が変化する中で、加工用米等の生産拡大、園芸品目の導入等と併せて、麦・大豆・そばの生産をより一層拡大していく必要がある。

また本町は中山間地に位置しており、獣害を受けやすく、単収の確保が課題となっている。そのため、水田農業を営むにあたり、それぞれの地域特性にあった農業を展開する必要がある。

作付面積については麦・大豆ともに年次変動はあるもの増加傾向で推移している。単収については、麦、大豆ともに年度ごとのばらつきが課題となっており、地域によっては排水対策等が不十分で湿害による単収低下となっているほ場も見受けられる。湿害は発芽不良や生育抑制を引き起こし、単収低下や品質低下を招くため、単収向上に向けた排水対策向上が必要である。また、作付頻度の増加による地力低下も単収低下の原因と考えられ、施肥や土壌改良資材の施用等の実施が課題となっている。さらに、近年は担い手への農地の集約が急速に進み、1農家あたりの作業面積が拡大することにより、適期作業の逸失等が起こることで、品質低下等に繋がっている事例も見られる。今後、作業効率向上を図るうえで、スマート農業の導入や団地化等の推進が課題となっている。

①中山間地における課題の解決に向けた取り組み

地域特性にあった農業を展開する。市街化調整区域においては、農地利用の作物として、現状のブロックローテーションによる麦・大豆・そばの団地化作付けを推進し、高品質の農産物生産に努めることとし、中山間地域においては、主食米を中心として、中山間地域に適した農産物の作付けを推進していく。

②需要に応じた生産と販売の実現

・生産量拡大および品質の均質化に向けて、麦・大豆ともに排水対策の徹底による湿害防止を図るとともに、堆肥等の有機物を用いた土壌環境の改善に取り組む。

・小麦については、後期重点施肥の推進による単収の向上に加え、生育後期の実肥の徹底によるタンパク含有量向上を図る。

・大豆については、適期作業の指導を徹底し、汚損粒や病害粒等の発生を防止することで、単収・品質の向上を図る。

・播種前契約の徹底により、需給に応じた生産を推進する。

1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

③排水改良

明渠や弾丸暗渠、心土破碎等の排水対策技術の普及による排水改善を推進する。

④スマート農業機械等の導入

現状、防除協会の実施する農薬散布期間に合わせ共同散布を行う農業者が多く、生育に応じた農薬散布が難しく、適期作業の逸失等による作業効率の低下が課題となっている。本町では関係機関と協力し研修会や実演会等を実施することにより、スマート農業、特に農業用ドローンの普及を目指す。農業用ドローンの導入により、生育に応じた細かな農薬散布が可能となり、適期作業の実現による作業効率の向上につながることを期待する。併せて、スライドロール式施肥播種機を導入することにより、作業効率が高まり、適期に播種ができ、面積拡大および生産性向上が図れる。

2. 産地と実需者との連携方針

【現状】

麦... 製粉会社では輸入小麦の情勢が不安定なことから、国産小麦が注目されている。中でも比較的安価な「ふくさやか」の需要が高まっており、本町としても作付の拡大を目指す。

大豆... 小麦同様に国産大豆の需要は高まっており今後も安定した供給や増産が求められていることから、本町としても作付拡大を目指す。

【多賀町小麦・大豆実績および目標】

作物名	品種名	令和3年			令和4年			令和5年			目標値(小麦:令和10年 大豆:令和7年)		
		面積 (ha)	数量 (t)	単収 (kg/10a)	面積 (ha)	数量 (t)	単収 (kg/10a)	面積 (ha)	数量 (t)	単収 (kg/10a)	面積 (ha)	数量 (t)	単収 (kg/10a)
小麦	フクサヤカ	94.7	323.6	341	102.8	292	284	99.9	360.9	361	115.0	437.0	380
大豆	全体	22.2	48.1	217	27.2	35.7	131	24.7	32.2	130	30	51	170
	オオツル	13.9	27.8	/	13.9	21.9	/	8.8	13.0	/	15.3	31	/
	フクユタカ	1.4	3.3	/	0.5	0.5	/	0.0	0.0	/	0.6	1	/
	コトユタカ	6.9	17	/	10.8	11.4	/	11.7	13.3	/	11.9	16	/
	すみさやか		0	/	2	1.9	/	4.2	5.9	/	2.2	3	/

※実需者の取扱量も同数値

【中心農業者 ■■■■■ の出荷状況】※令和5年度産地生産基盤パワーアップ事業(麦・大豆機械導入対策)実施

作物名	品種名	令和3年	令和4年	令和5年	令和7年	令和8年
		数量 (t)				
小麦	フクサヤカ	58.9	55.3	74.9	/	63.0
大豆	全体	32.1	19.5	26.0	31.3	/
	オオツル	15.8	9.0	8.4	/	/
	フクユタカ	3.4	0.5	0	/	/
	コトユタカ	12.9	8.1	11.7	/	/
	すみさやか	0	1.9	5.9	/	/

※JAを経由しての出荷となるため実需者への販売状況データなし

2. 産地と実需者との連携方針(つづき)

【中心農業者 XXXXXXXXXX の出荷状況】※令和6年度産地生産基盤パワーアップ事業(麦・大豆機械導入対策)実施予定

作物名	品種名	令和3年	令和4年	令和5年	令和10年
		数量(t)	数量(t)	数量(t)	数量(t)
小麦	フクサヤカ	37.0	27.0	40.5	74.2

※JAを経由しての出荷となるため実需者への販売状況データなし

3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割

